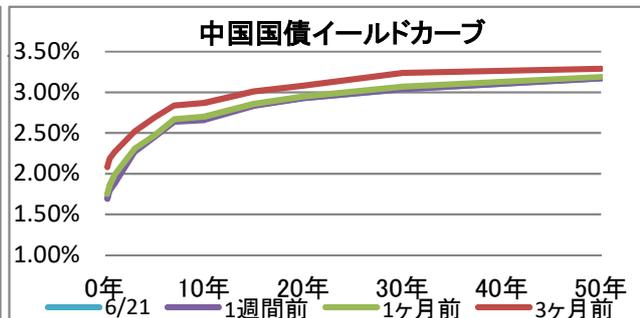
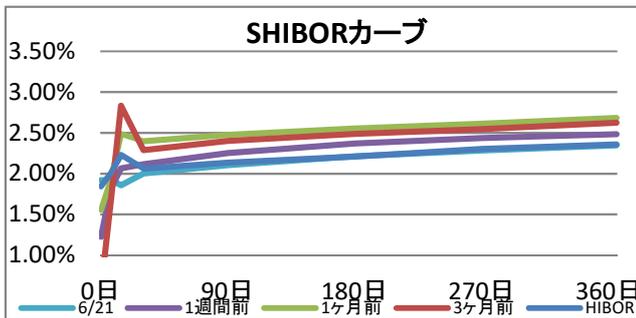


基準レート		2023/6/21	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	7.1795	+0.0506
	JPY/CNY	5.0795	-0.0056
SHIBOR	3M	2.1350%	+0.0300%
国債利回り	10年	2.67%	+0.01%
上海総合指数		3,197.90	-75.43



(1) 概況

国際金融市場では、FRB議長のタカ派的な議会証言やBOEの予想を上回る利上げ等によりインフレ対策としての金融引締め長期化が意識される一方、中国の景気減速懸念に加えて欧米でのPMI低下により景気悪化懸念も高まり、債券利回りは短期が上昇し、長期が低下する逆イールドが進行し、株価は下落。為替市場では、日本と欧米の金融政策スタンスの相違が意識され、円安が進行。

中国金融市場では、景気減速懸念に加えて最優遇貸出金利（LPR）5年物の引下げ幅が市場予想比小幅に止まり、政府の景気支援の詳細も示されず、米中関係悪化や欧米の金融引締めへの警戒感等から、連休前の持ち高調整もあって株価は3200の大台を割り込む下落となった。債券市場では、景気減速懸念が強いものの増発懸念も根強く、欧米の金融引締め警戒感もあって、利回りはほぼ横這い。為替市場も、景気減速や金利差拡大への懸念、国外への資金流出もあって続落。

中国では、習主席が米国務長官訪中による米中会談で一定の議論の進展があったと評価したものの、その後のバイデン大統領の独裁者発言に中国政府は猛反発。李強総理は、訪欧時の独首相や仏大統領との会談で協力関係強化を主張し、独財界代表との座談会では、両国企業が双方にメリットのある協力関係を維持し、サプライチェーンの安定性を維持することを希望し、仏大統領主宰の新グローバル金融協定サミットでは、世界的な問題の克服のため、中国と欧州が違いを乗り越えて創造的な解決策を見出す必要性を強調。中国政府は、新工率取得税の減免措置を2027年末まで延長すると公表し、人民銀行は、昨年8月以来となる最優遇貸出金利（LPR）の引下げを実施し、金融当局・金融機関関係者を集めて監査業務の改善に関する座談会を開催。最高人民検察院が、収賄容疑で人民銀行の範一飛元副総裁の逮捕を決定したこと等を受けて、人民銀行は国家外貨管理局とともに反腐敗に関する警告の教育会を開催。証監会は、債券登録制度改革の深化に関する指導意見等を公表し、支払能力に重点を置いた情報開示要件の強化や受託業務の管理強化の方針を示し、香港証券取引所は、同一銘柄の香港ドル建て株式と人民元建て株式の交換を可能とする「香港ドル・人民元デュアルカウンターモデル」を開始。在中国欧州商工会議所の調査では、中国進出の欧州企業にとって米中関係の悪化やデカップリングよりも、中国・世界経済の減速が最大の課題と指摘。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日60億元、中央国庫定期預金期日500億元に対して、リバースオペ4160億元を実施し、ネットで3600億元を供給。

(3) 主な経済指標

特になし。

② 資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.8440%	1.7000%	1.8000%	
1W	2.0090%	2.2000%	2.0000%	1.8500%
2W	2.2290%	4.5000%	2.5500%	2.2500%
1M	2.0610%	2.3000%	2.8000%	2.2300%
3M	2.1350%	2.2500%	2.3000%	2.1800%
6M	2.2110%	2.4100%		2.2000%
9M	2.3040%	2.9000%		2.3200%
12M	2.3600%	3.2000%		2.3700%

LPRが引き下げられたものの、端午節の連休も控えて四半期末への意識が一層高まり、金利水準の上昇が続いた。ターム物の金利水準は四半期末越えとなる1ヶ月が2.3%を越える水準で出合っている以外は限定的となっている。

NCDの金利水準も、四半期末越えとなる1か月超での上昇が続き、ターム物は、1ヶ月が2.2%前後、3ヶ月が2.15%前後、6ヶ月が2.1%台後半、1年が2.3%台後半で取引されている。

(2) 米ドル資金（本土内）

	BID	OFFER
ON	5.35%	2.37%
1W	2.37%	5.40%
1M	5.60%	5.63%
3M	5.65%	5.75%
6M	5.70%	5.75%
12M	5.70%	5.75%

中国国内市場では、パウエル議長の議会証言を控えて警戒感に変化はなく、ビッド仕かりの状況が続き、ターム物の出合いは依然として限定的。ターム物は、1ヶ月が5.6%台、3ヶ月が5.7%前後で取り引きされている。

③ 人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.70%		2.19%	2.26%	2.45%
6M	1.86%		2.21%	2.31%	2.50%
1Y	1.92%	2.05%	2.41%	2.48%	2.67%
3Y	2.28%	2.39%	2.67%	2.83%	3.42%
5Y	2.47%	2.59%	2.83%	3.08%	3.76%
10Y	2.67%	2.88%	3.02%	3.30%	4.06%

米国債券市場では、週半ばまでは中国の景気減速懸念を背景に利回りは低下していたが、パウエル議長の議会でのタカ派発言により短期を中心に上昇に転じた後、欧米でのPMI低下を受けて長期利回りが再度低下に転じて逆イールドが一段と進行する展開となった。中国債券市場では、増発懸念と四半期末要因から短期を中心に利回りが上昇。米国の10年国債利回りは3.73%（前週比-3bp）に低下し、10年中国国債利回りは2.67%（同、+1bp）に上昇したことから、利回り差は+106bp（同-4bp）へと縮小に転じた。

中国債券のイールドカーブは、全体的な上方シフトが続く中で、四半期末を控えて短期の利回り上昇が相対的に大きい状況が続いており、更にフラット化している。クレジットスプレッドは、前週末と概ね変化なし。

④ 先物為替市場

	USD / CNY
1M	-235.4 / -235.1
3M	-716.0 / -714.0
6M	-1385.0 / -1377.0
9M	-1969.0 / -1963.0
12M	-2485.0 / -2482.0

対ドル基準レートは7.1795と前週末比+506pipsのドル高元安、対円基準レートは5.0795と同-56pipsの円安元高と、市場での対ドルでの元安を受けた設定となった。中国国内市場では、前週末に元の買戻しが見られたが、期待された中国政府の景気刺激策の詳細が示されなかったことへの失望に加え、米中関係悪化や金利差拡大への懸念から端午節の連休を前に一気に元安が進んで7.19台まで上昇した。

先物は、先週末に元の買戻しもあって-2300台まで大幅に縮小していたものの、金利差拡大への懸念が再燃して、マイナス幅拡大に転じており、-2500近辺に戻して連休を迎えている。

⑤ 金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.05%		1.65%
6M	2.05%	2.19%	1.65%
9M	2.06%	2.25%	1.66%
1Y	2.09%	2.28%	1.67%
3Y	2.31%	2.56%	2.06%
5Y	2.52%	2.84%	
7Y	2.64%	2.98%	
10Y	2.77%	3.09%	

スワップ金利は、債券利回りに加え、短期の基準金利の上昇により小幅ながら上昇が続いている。債券利回りとの差であるスワップスプレッドは、やや縮小している。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入